

いつまでも元気に  
みんなで支え合う体制づくり

高齢になっても、元気で自分らしい生活を送ることが何よりも大切です。支援が必要な方でも、自分ができることを生かせば時には支える側になって、誰かを支援することもできます。効果的な介護予防の取り組みや、地域で支え合う体制づくりのためには、次のことがポイントになります。

Point ① 「社会参加」が介護予防になる

- ・高齢者が気軽に通える場所を増やす
- ・「参加したくなるような場」、「介護が必要になっても参加できる場」、「高齢者の居場所」をつくる
- ・地域の実情や実態に応じた不足するサービスを、地域の支え合いや助け合いで補うことも必要になる

Point ② 「多様な担い手」で支える

- ・ボランティアやNPO法人、民間企業、社会福祉法人、協同組合、各種団体などが生活支援や介護予防のサービスを提供する仕組みを構築する

Point ③ 「今あること」を生かす

- ・地域の中にあるもの、行われていること、地域の財産を生かして、地域の支え合いを広げ、さまざまな高齢者のニーズに応えることができる地域づくりを進めていく

Point ④ 「地域の活動」を応援する仕組み

- ・地域での助け合い活動を創出する発案者や人材養成、組織づくりなどの活動開始に結びつける「生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）」との連携
- ・関係団体と協働し、生活支援コーディネーターと一緒に地域のニーズや既存のさまざまな話し合いの場など、これから行っていく地域での助け合い活動を企画する「協議体」への積極的な参加

市では、平成28年10月から旧町に1人ずつ、計4人の生活支援コーディネーターを配置しました。地域へ出向いて地域の声を聞かせていただき、4つのポイントを踏まえた上で、皆さんと一緒に地域づくりを進めていきます。

多様な主体による生活支援・介護予防サービスの重層的な提供

○高齢者の在宅生活を支えるため、ボランティア、NPO法人、民間企業、社会福祉法人、協同組合などの多様な事業主体による重層的な生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築



厚生労働省資料を一部改編